令和７年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 西原 中学校 ）　　学校番号　２５６

【様式】

学校教育目標	心の豊かな生徒（Global・徳）自ら学ぶ生徒（Growth・知）強くたくましい生徒（Grit・体）
目指す学校像	地域の学校として学校・家庭・地域が連携・協働し、社会に貢献できる人材を育む学校

重点目標	１　一人ひとりの生徒を主体とする学びの自立と個別最適化の実現 ２　誰一人取り残されない教育支援・相談体制の充実 ３　学校運営協議会を核とした地域、保護者の願いが叶う教育の実現 ４　安心・安全な教育環境の整備 ５　最新の教育トレンドへのアンテナを高くし、自己の指導技術更新を心掛ける教職員の育成

※重点目標は５つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会による評価（実施日令和８年２月１３日） 学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1 学びの質の向上に関する取組	〈現状〉 ○全国及び市独自の学習状況調査では、これまで合計点を市平均と比較すると、５～１４点下回ってきたが、昨年度は市平均との差＋６～－２点となり、授業ごとに行う Y（やったこと）W（わかったこと）T（次になること）による授業の振り返りの継続の成果が見られる。 〈課題〉 ○読解力に課題のある生徒が少なくない。 ○授業が「わかる」「将来役立つ」と感じている生徒の割合が低い。	・デジタルドリルや学習ツールを活用した基礎学力の向上。	①朝の時間に、新聞ワークシート及びスタディサプリに取り組む時間を設定し、基礎学力の向上を図る。 ②授業における YWT による振り返りの時間を確保することで、自ら学ぶ力を高める	①２年生は、市学習状況調査４教科合計において、昨年度同集団での市平均との差を上回る。３年生は、全国・学力学習状況調査、教科に関する調査において市平均を上回る。 (R6:1 年+6.2、2 年-0.94)	①市学習状況調査及全国・学力学習状況調査における市平均との差は、２年生が+6.2→+11.7、３年生が-0.94→-2.5 と全国平均は上回ったが、市平均には及ばなかった。しかし国語については、市平均-1 と過去３年で最もよい結果となった。	B	①基礎学力向上タイム、スタサプタイムは本校の課題として捉えていた国語力向上に効果的であった。 ②YWT の取組が研究の中心から離れてきている。継続的に全ての教職員が取り組めるようにしていきたい。	・学力については、数値で示すことが分かりやすく大切である。 ・全国学力学習状況調査についても、全国平均を超え、国語も伸びていることは成果である。 ・朝の時間を有効活用できていることが素晴らしい。振り返りの充実、ICT 活用など小中連携を図っていきたい。
		・生徒の主体的な学びを実現させるための手立て及び教職員の指導力向上。	①「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」を校内研究テーマとし、教職員の指導力向上を図る。 ②教職員相互の授業参観を活発化させることで、指導力向上を図る。	①学校自己評価、生徒対象「授業に進んで意欲的に取り組んでいる」の A 回答の向上。 (R6:1 年 39.5%、2 年 32.2%→R6 以上)	①学校自己評価、生徒対象「授業に進んで意欲的に取り組んでいる」の A 回答の割合は、２年生が 39.5%→37.6%(-1.9)、３年生が 32.2%→37.4%(+5.2)と目標を達成した。	A	①教職員は ICT の活用、生徒の主体性を大切にした授業実践を重ねている。授業の相互参観を充実させたい。 ②生徒端末の更新に伴う学習環境の変化をプラスに捉え、学力向上に繋がる取組を組織的に行っていく。	
2 子どもの発達や心のサポートに関する取組	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査質問紙「自分にはよいところがあると思いますか」「学校に行くのは楽しいと思う」「友人関係に満足している」と回答した生徒の割合は全国平均を上回った。 〈課題〉 ○教育相談的配慮を要する生徒が増加する中であっても、生徒一人ひとりの支援の充実を図る必要がある。 ○２年目となるSolaるーむは、効率的な運営を目指し、改善を図り続ける必要がある。	・生徒一人ひとりへの細やかな生徒指導・教育相談に向けた校内体制の充実。	①週１回の生徒指導部会、教育相談部会において、生徒の最新情報を随時共有し、迅速且つ組織的な対応を行う。	①学校自己評価、保護者対象「学校は、生徒の悩み事に対して、相談できる体制を整えている」の肯定的な回答を昨年度以上とする。(R6:80.8%)	①学校自己評価、保護者対象「学校は、生徒の悩み事に対して、相談できる体制を整えている」の肯定的な回答は、80.8%→76.6%(-4.2)と目標に達さなかった。	B	①生徒一人ひとりへの細やかな対応は年々充実している。保護者・地域への取組の発信で認知させていくことが大切である。	・とても心を感じる先生方が多く、その努力に感謝している。 ・小学校では特別支援学級の生徒数が増加しているが、人数に応じて教職員の配置数も変わることを聞いて安心した。 ・教育支援・教育相談体制の充実はこの地域にとても重要なテーマであり、今後も小中の連携を図っていきたい。
			①トラブル発生時、心と生活のアンケート実施後、長期欠席生徒への対応等、報連相の徹底と生徒、保護者への丁寧な働き掛けを継続して実施する。 ②Solaるーむに関わる業務分散を進め、持続可能な運用を行う。	①学校自己評価、生徒対象 「悩みや困ったことを相談したとき、先生は相談に応じてくれる」の肯定的な割合を昨年度以上とする。 (R6:1 年 70.9%、2 年 58.9%)	①学校自己評価、生徒対象「悩みや困ったことを相談したとき、先生は相談に応じてくれる」の肯定的な割合は２年生 70.9%→51.8%(-19.1)、３年生 58.9%→63.7%(+4.8)と概ね目標を達成した。	B	①職員の入れ替わりによる影響も考えられるが、引き続き組織的に対応していく。 ②Sola るーむは年々充実している。さわやか相談員、SC 等も子どもに寄り添った対応が出来ている。次年度も継続していくことが大切である。	
3 地域とともにある学校づくりに関する取組	〈現状〉 ○学校運営協議会の熟議が充実してきており、学校を発信源とした地域への働きかけが進みつつある。 〈課題〉 ○学校運営協議会を核とし、地域、保護者の皆さんの思いや願いを受け止め、学校教育活動との連携強化が求められる。 ○PTA活動の大幅な活動縮減が図られ、保護者の負担は軽減しているが、学校の負担増、学校、保護者の連携弱化が進んではならない。	・学校運営協議会を発信源とした地域に根ざした信頼される学校の実現。	①西原小学校と合同で実施している学校運営協議会の実施方法を一部各校開催とすることで熟議の時間を充実させ、地域、保護者の願いの実現を図る。 ②学校運営協議会を主体とした発信、取組を拡充する。	①学校自己評価、保護者対象「学校は保護者や地域の人々との連携を図って教育活動を進めている。」の肯定的な割合を昨年度以上とする。(R6:80.2%)	①学校自己評価、保護者対象「学校は保護者や地域の人々との連携を図って教育活動を進めている。」の肯定的な割合は、80.2%→87.7%(+7.5)と目標を達成した。	A	①２年前最も大きな課題とした地域、保護者との連携が飛躍的に改善できた。小学校との連携、学校運営協議会の充実が今後も求められる。 ②西原小地域交流子どもフェスへの参加を実現できた。今後継続していく。	・地域、保護者との連携については、様々問題、課題もあるが　管理職をはじめ教職員の皆さんがとても丁寧に対応してくださり感謝している。 ・地域交流子どもフェスについては、次年度学校運営協議会が主催となるが、実行委員を立ち上げ、組織的に役割分担をして進めていけるとよい。
		・地域と学校との関わりの充実。	①ボランティア活動の充実を図るため、学校運営協議会、地域の会合等を通して呼びかけを行い、生徒の活躍の場を広げる。	①学校自己評価、保護者対象「学校は、保護者や地域の協力、願いを受け止めて、学校の教育活動を進めている。」の肯定的な割合を昨年度以上とする。(R6:84.6%)	①学校自己評価、保護者対象「学校は、保護者や地域の協力、願いを受け止めて、学校の教育活動を進めている。」の肯定的な割合は 84.6%→90.3%(+5.7) と目標を達成した。	A	①ボランティア活動は促進され、地域の様々な行事で活躍できた。 ②PTA 活動については、小林会長を中心に次年度以降の体制の構築が進めらている。新年度の体制を確定していく。	
4 教育環境の整備に関する取組	〈現状〉 ○PTA、部活動が全入ではない時代となり、受益者負担の原則に反するPTA会費、生徒会費からの支出の見直しが図られてきた。 ○昨年度学校施設の瑕疵による事故は発生していない。 〈課題〉 ○新設柔道場の工事が継続していることから、引き続き業者との連携を図り、安全を確保する必要がある。 ○毎月の安全点検を確実に実施するとともに、危険個所への対応を迅速に行う必要がある。	・適切な予算執行と教育環境の充実。	①生徒会費、PTA 会費、部活動費の予算案を見直し、受益者負担の原則のもと執行することで教育環境を充実する。 ②学校長マネジメント分予算について、教職員の願いに応じた優先順位の設定、効果的な執行を実現する。	①学校自己評価、保護者対象「学校は、安全・安心に配慮した教育活動を進めている」の A 回答の割合を昨年度以上とする。 (R6:31.9%)	①学校自己評価、保護者対象「学校は、安全・安心に配慮した教育活動を進めている」の A 回答の割合は、31.9%→35.7%(+3.8)と目標を達成した。	A	①予算案、執行の仕方等が見直され、教育環境の充実等、効果的な予算執行が実現できた。 ②教頭、事務との連携、市教委への働きかけ等により、優先順位に応じた環境改善を図ることができた。	・いつも校内がきれいで素晴らしい環境である。配当予算が限られる中で、しっかり優先順位をつけて対応されているのが素晴らしい。 ・校内ではないが、学校近隣に新たな広場が整備されるため、有効活用を検討できるとよい。
		・安心・安全で美しく整えられた教育環境づくり。	①現在行われている柔道場新設工事等の安全管理を徹底する。 ②毎月の安全点検を徹底するとともに、覚知した修繕箇所については、優先順位を明確にした上で、迅速に対応する。	①学校自己評価、生徒対象「安全に安心して活動できるよう、先生方は気を付けてくれている」の A 回答を昨年度以上とする。 (R6:68.4%)	①学校自己評価、生徒対象「安全に安心して活動できるよう、先生方は気を付けてくれている」の A 回答の割合は、68.4%→63.6%(-4.8)となったが肯定的な回答の割合は、98%→98.5%(+0.5)と昨年度を上回ったことから概ね目標を達成した。	B	①新設柔道場について、大きな瑕疵による事故もなく完成することができた。 ②安全点検は、確実に実施されたが、指摘箇所の修繕が予算上厳しい事例もあった。先を見据えた計画的な取り組みが必要である。	
5 教職員のキャリア形成に関する取組	〈現状〉 ○一人一台端末が整備され４年目を迎え、ＩＣＴの活用については、日常化されつつある。 ○働き方改革については、昨年度１か月の教職員一人当たりの時間外在校時間は40時間を下回る成果が得られている。 〈課題〉 ○教職員が、生徒に ICT を効果的に活用する授業の充実を図る必要がある。 ○より一層の業務分散を図る必要がある。	・自己の指導技術更新を心掛け、学び続ける教師の育成。	①学校課題研究を通して、教職員が個々に目標をもち、授業力向上を目指せるようにする。 ②校長だよりを通して最新の教育ニュース等をまとめ発信する。	①学校自己評価・教職員対象「研修課題に主体的に取り組み、研究に取り組めているか」のAの割合の向上。 (R6:35%→40%)	①学校自己評価・教職員対象「研修課題に主体的に取り組み、研究に取り組めているか」のAの割合は35%→22.7%(-12.3)と目標を下回ったが、肯定的な割合は、95%→95.5%(+0.5)と昨年度を上回ったことから概ね目標を達成した。	B	①校内研修は着実に充実してきているが、組織的な取組については課題があった。全ての教職員が主体的に取り組めるよう研究主任を中心に次年度改善を図っていく。 ②校長だよりは不定期だが発行できた。	・小中合同研修会や相互授業参観を継続し、小中連携を引き続き充実させていきたい。 ・特別支援学校の先生による進路に関する講話を小学校で実施するが、こうした場でも互いに学び合えるとよい。 ・働き方がとてもスマートで時間外在校時間も少なく素晴らしい。
		・信頼される教職員の育成と働き方改革の推進。	①「学びの指標」の結果をもとに、自己のキャリア段階と比較し、目標をもって指導に当たれるよう指導する。 ②適切な業務分散と ICT 等の活用により、業務の効率化を図る。	①さいたま市教員等の勤務に関する意識「負担や多忙感を感じている。」の肯定的な回答の割合の減少。 (R6:86.7%→85%)	①さいたま市教員等の勤務に関する意識「負担や多忙感を感じている。」の肯定的な回答の割合は、86.7%→84.6%(-2.1)と目標を達成した。	A	①「学びの指標」は自己評価の目標値に設定する教職員も多くおり、授業改善の指針となった。 ②教職員の一か月の時間外在校時間の平均は 27 時間と働き方改革が進んだ。	